

徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議 第2回「おどる」まち部会 会議録（要旨）

日 時 平成28年11月7日（月） 午前10時～12時
場 所 徳島市役所8階庁議室
出席者 委員11名、担当部局、事務局

1 開会

2 基本政策「夢がおどる」、「ひとがおどる」について

（事務局）

- ・「夢がおどる」は地域経済の活性化に主眼を置いた政策であり、「ひとがおどる」は市民活動の活性化に主眼を置いた政策である。
- ・「夢がおどる、ひとがおどる」において目指す10年後の姿を説明

※ 質問及び意見なし

3 これまでの取組成果について

（事務局）

- ・第4次徳島市総合計画における取組状況（夢がおどる）、（ひとがおどる）をもとに、当初目標を上回った指標、下回った指標等を説明

（委員）

コミュニティセンターの利用回数について。福岡ドームは1時間10万円で借りられるので稼働率が高いが、シビックセンターを借りると数万円かかる。市民が使える料金設定なのか。また、スポーツ振興を考えると、市民が使える立派な施設がないのではないかと。

（事務局）

利用料金については、周辺とのバランスなどを考慮して設定しているので特別高いわけではないと思うが、特に良い施設が低料金で借りれるという仕組みがあるのであれば、検討していく必要があるかと思う。

（委員）

コミュニティセンターの管理にとどまらず、商店街の空き店舗を1日単位で借り上げて使わせてもらうなど地域と連携して、低額で使用できるスペースを確保する必要があるのではないかと。

(部会長)

空き店舗の活用も含めてコミュニティの活動を進めるような方策を考えてはどうかという意見である。

4 今後の取組方針（夢がおどる）について

(事務局)

徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料（施策方針編）をもとに、基本政策「夢がおどる」に位置づけられた各施策の概要・取組方針・成果指標（目標値）を説明

(委員)

認定農業者について、第4次総合計画では500経営体を目指すこととしていたが、今回は200経営体に大幅に下方修正されている。実際のところ200に増やすのも大変と思う。これは、認定農業者にメリットがないためである。

認定農業者になると、補助金で少し優遇されるが、スーパーでは農薬を使ったものと並べて売られるし、すだちくんシールを貼っているが、トクシシールの方が徳島市ということがよくわかってよいという意見もある。ほうれん草と枝豆がブランド品目として伸びているが、面積の維持に取り組んでほしい。農機具のレンタル制度があれば、初期投資もいらなくなる。これで認定農業者を目指すかどうかはわからないが、農業振興にはつながってほしい。

(部会長)

認定農業者になるメリットを増やしてほしいという意見である。

(委員)

徳島市がブランドになっているというより、品種がブランドになっている。品種ブランドを推進し、特産品みたいな感じで、とくしまマルシェで県外に紹介してもらうのは良いと思う。また、販路の拡大も必要である。

1次産業と2次産業のつながりは強いようだが、商業者と組んでお客さんのニーズを確認してから製造・加工するシステムを構築する必要があると思う。

(部会長)

取組方針に掲げられているような、ブランド化、販路拡大、6次産業化をきっちり進めていくべきだという意見である。

(委員)

6次産業の促進が良いと思う。観光面からいうと、体験農園、農家レストランの創設や普及、さらにそれを発展して、地元産品を使っている店の認定制度を設けたりするとよい。全国的に地産地消の店に積極的に誘導するような動きがある。生産者への

対応も必要であるが、そこから発展して商業施設の振興まで考えるべきではないかと思う。

(部会長)

具体的に6次産業化をどのように進めるかの提案が必要である、という意見である。

(委員)

施策8-1「農林水産業の振興」について、農業農村振興ビジョンとの整合性が必要である。

本市の課題のところに、増大している鳥獣被害についての記述がない。

水産業についての記述がほとんどない。施策のタイトルとも合わない。

「農地施設」の整備延長というのは分かりにくい。

(担当部局)

農地施設とは、農業用の排水路、道路のことである。

(委員)

農地施設の説明を括弧書きでもしておいてほしい。

(委員)

内町小学校と新町小学校は児童数が減少しており、統廃合により内町小学校を廃止して、武道館の建替えと併せて、内町小学校のところに武道館併設の音楽ホールを建てればよい。そこなら、公共交通も利用できるし、川の駅もつなげることができる。

また、中洲市場を知らない人が増えているので、川の駅を整備すれば、買い回りもできるのではないか。

(部会長)

音楽ホールに武道館を併設したものを内町小学校が統合された跡地に建てればどうかという意見と、中洲市場に川の駅を整備してはどうかという意見である。主には「まちがおどる」に関する意見と伺った。

(担当部局)

内町小学校の体育館の東側の石垣から国の史跡となっているため、城山だけではなく内町小学校の敷地部分も使えないものである。

(委員)

動物園・児童公園の跡地はどうなっているのか。文化センターはそこに移転しないのか。

(担当部局)

都市公園法上の公園の指定は外れたが、都市計画法上は都市公園のままである。文化センターについては、現在有識者会議において議論していただいているところである。

(委員)

東工業の跡地はどうなっているのか。イオンの駐車場にとどまらず、もっと利用できないのか。

(事務局)

内部の公有財産活用会議において検討している段階と思うが、将来の方向性は出てないと思う。

(委員)

農業のもう1本の柱であるはずの酪農が衰退していつている気がする。雪印乳業はなくなり、日本ハム系の工場は事業を縮小した。このようなものをまた誘致してこないと酪農は復興しないのか。

(部会長)

酪農についての記述がないのはなぜかという質問である。

(担当部局)

酪農・畜産については、TPPの影響が大きい分野であると認識している。ただし、県域においてはそれなりに行われていると思うが、市域ではほとんど行われておらず、現在取り組まれていないため、復興させるという考え方は持っていない。居住が広がった結果、だんだん縮小してきたものと考えている。

(部会長)

何もかもを振興するのは難しいと思う。都市近郊の農業ということで、都市の近郊であることに配慮した方針が必要と思う。

(委員)

施策8-2「地域産業の振興」の取組方針の地域ブランド化の支援のところ、組織団体や企業を支援するとあるが、多くの高校生なども積極的にブランド化に取り組んでいることから学生のような言葉を支援対象に入れるべきではないか。また、学校教育との連携が関わってくるのでは。

(部会長)

学生が取り組むのを援助してはどうかという意見である。

(委員)

品川女子学院は一流企業と提携して商品開発したりしている。行政が支援することで起業者も増えるのではないか。

(委員)

施策８－３「商業・サービス業の振興」の取組方針に挙げられている魅力的な商業地の形成の具体策はどうなっているのか。

(担当部局)

現在の施策としては、中心商店街活性化の支援として、商店街の提案に対して助成している。

(委員)

早急に具体策が必要と思う。LEDできれいなまちにしても、歩ける街にはならないと思う。中心市街地が魅力的にならないと若者が市に残らない。

(部会長)

前回の「まちがおどる」のいろいろな施策と関わる部分があるので、そちらも確認してほしい。

(事務局)

来年３月の総合ビジョンの策定の時点では、平成２９年度予算を踏まえて具体的な事業が記載されるのでみてほしい。

(委員)

施策８－２「地域産業の振興」の指標の企業等の誘致件数の現状値であるが、第４次総合計画の取組状況に記載された数字と合わない。

(担当部局)

第４次総合計画の設定時からの積み上げの件数と思うが、確認したい。

(委員)

施策８－２の本市の現状と課題のところで、徳島県の開業率について記載しているが、徳島市の開業率で書き直してほしい。

(委員)

商業と交通についてであるが、駅前には荷受け・荷出しスペースがない。また、放置自転車が多く、特に学生に多い。他都市では無料の駐輪場が整備されている。中心市街地にこれらの整備が必要である。

(委員)

学会・コンベンションを誘致する体制を整備することで、商業施設や交通機関の振興につながると思う。

(部会長)

学会・コンベンションの誘致について、M I C E (Meeting (会議) , Incentive tour (招待旅行) , Convention 又は Conference (学会・国際会議) , Exhibition (展示会) の頭文字をとった言葉) として指標化しても良いと思う。

(委員)

施策8-4「働く環境づくりの推進」の現状と課題の部分に、「女性、高齢者の就労支援がますます重要になる」ということを記載してほしい。取組方針に出てくるものであるし、可能であれば指標にも入れてほしい。

5 今後の取組方針（ひとがおどる）について

(事務局)

徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料（施策方針編）をもとに、基本政策「ひとがおどる」に位置づけられた各施策の概要・取組方針・成果指標（目標値）を説明

(委員)

施策9-1「文化・芸術活動の振興」について、外国人観光客が関心を持つ日本文化・徳島の文化に触れられるネットワークづくりに取り組めばよいのではないかと。

施策9-2「スポーツ・レクリエーション活動の振興」について、川を生かしたまちづくりに関連して、SUPなどのリバースポーツを推進してはどうか。

施策9-3「生涯学習の推進」について、地域への誇りや愛着心をもってもらい、というような文言があるとよいのではないかと。

施策9-4「地域自治・協働の推進」について、民間で阿波銀プラザのように無料で使えるところがある。利用料金の減免制度があればよいのではないかと。

(担当部局)

コミュニティセンターは27か所あり、利用料金はコミュニティセンターにより異なり、1日1室あたり、7,500円～9,000円程度が多くみられるが、地域の団体や地元の学校の展示などの場合、半額などの減免制度はある。これまで地域の団

体で活動したり、コミュニティセンターが主体となって活動しているが、少人数で活動しているサークル等と結び付けられるような施策を検討していきたい。

(委員)

施策9-1の現状と課題に、「文化センターの利用中止による市民の文化活動への影響が懸念される」などと記載する必要があるのではないか。

(委員)

市内に競技のできるプールがない。県がすべきことかもしれないが、徳島から水泳のオリンピック選手も出ているので、せめて全国大会ができる施設は欲しいと思う。

(委員)

文化活動ボランティア・ワークショップとは何か。

(担当部局)

シビックセンターのホールボランティアや、音楽活動等をはじめとする文化活動を支援してくれるボランティアの研修、育成をする取組を実施している。

(委員)

他からの資料で中心市街地で行われたイベントの一覧がある。しかし、何人集まったという数はわかるが、コストパフォーマンスが分からない。継続することに意味のあるイベントもあると思うが、コストパフォーマンスも追及していかなければならない。市民に分かるように公表できないのか。

(部会長)

イベントについて、費用と参加者数をあわせて公表すべきだ、という意見である。

(事務局)

決算書で公表しているし、企画政策課の事業で言えば、水都祭について、補助金がいくらで、観客数がどれくらいだったというのを出している。

(委員)

評価する組織が必要かと思う。

(事務局)

行政評価において、外部評価の仕組みを作っていく予定である。

(委員)

施策9-2で全国規模のスポーツ大会の開催とあるが、どこで、どんなことをする予定か。

(担当部局)

現在の市立体育館、陸上競技場、プール、球技場については、慢性的な駐車場不足や老朽化の問題の他、文部科学省の整備指針を満たしていなかったり、観客席も少なかったりする。

体育館については、耐震化はしたが、いずれ新体育館が必要となり、その際に大きな体育館にプールも併設するような形にできたらよいと考えている。

(委員)

第4次総合計画で、スポーツ施設の充実に努めますとあったが、この10年間で何かつくったか。

(担当部局)

新しくできたものはない。

(委員)

今回の総合ビジョンで同じ表現をしても絵に描いた餅になる。もっと具体的に「体育館を新設する」などと書かないと進まないのではないか。スポーツ施設について、徳島は県庁所在地で最悪の水準であり、10年後も同じことになるのではないか。

(部会長)

スポーツ施設が他都市より少なすぎる、具体的な整備方針を示す必要があるのではないか、という意見である。これについては、検討いただくことになると思う。

(委員)

総論の話ばかりしているが、各論を煮詰めるのが我々の仕事ではないのか。達成度合いは外部に見てもらう必要があるのではないか。

(事務局)

平成29年度から外部評価を行う予定である。

(委員)

まちづくりの指針ができました、実績はゼロでした、ということでは困る。

(部会長)

事業が進まないのは、市長の責任であり、選挙でその責任を問われることになると思う。

(委員)

「夢がおどる」、「ひとがおどる」は阿波おどりにかけたものと思うが、阿波おどりは徳島市の代表的な文化・芸術である。鳴門市は第九を推進していると見受けられる。阿波おどりに関する取組についてもう少し具体的な改善改革というところで、文章があった方が市民にとって分かりやすいのではないか。

(部会長)

阿波おどりを中心とした展開をどこかに具体的に書き込むべきという意見である。「まちがおどる」の7-3「観光・交流の促進」あたりかもしれない。

(委員)

文化センターは現地で建て替えないのか。

(担当部局)

文化センターの耐震リニューアル案や新たなホールについては、有識者会議で議論いただいているところである。場所等は未定である。

(委員)

徳島市観光協会の理事もしているが、観光協会はなはるフェスタと阿波おどりしかしていない。阿波おどりの振興だけでよいのか。他の観光資源の周知が全くできていないのではないか。

また、インバウンド向けの整備が遅れていると思う。案内板を充実させないといけない。

(担当部局)

観光協会が阿波おどりに特化していることは認識している。新しい観光の掘り起こしについては、広域DMOを立ち上げ、広域でPRできるコンテンツを持ち寄って、県外に発信していきたい。

インバウンドについて、阿波おどり会館には中国語・韓国語の案内もあると思うが、タイやインドネシアの方については、英語でもいいのかな、という程度の認識である。状況を見ながら今後検討したい。

また、道路の看板については、各道路管理者の範疇であるが、東京オリンピックに向けて多言語対応の指針も出てきているので、対応していく流れになろうかと思う。

(部会長)

阿波おどり以外に自動車に頼らないで周遊して観光できるような仕組みが必要かと思う。

6 その他

(事務局)

今後のスケジュールを報告